



平成27年度 地域発 元気づくり支援金【北信地域】 37事業が内定しました。

「地域発元気づくり支援金交付要綱」に基づき、北信地域事業選定委員会による審査を経て、下記のとおり内定しました。

1 事業区分別の選定状況

(単位:千円)

事業区分	選 定 状 況		
	件数	支援額	事業例
1 地域協働の推進	7	15,848	広小路界限創造プラン実践事業、須賀川区魅力発信事業など
2 保健、医療、福祉の充実	2	1,104	お父さんの読み聞かせ、困難を有する若者を支援する場所づくり
3 教育、文化の振興	2	2,173	和算家・野口湖龍没後200年記念事業、斑尾高原芸術祭
4 安全・安心な地域づくり	2	1,049	災害時避難施設で体験・ワークショップ、湯田中区防災マップ作成事業
5 環境保全・景観形成	3	5,417	奥志賀高原リドウの丘整備事業、志賀高原森林再生事業など
6 産業振興、雇用拡大 (小計)	17	30,865	
(1) 特色ある観光地づくり	6	16,090	信越9市町村広域観光連携事業、龍興寺清水周辺魅力アップ事業など
(2) 農業の振興と農山村づくり	2	2,469	都市における農産物・情報発信拠点運営事業など
(3) 森林づくりと林業の振興	1	808	カヤの平高原におけるブナの森づくり
(4) 商業の振興	2	2,433	ハロウィンイベント、イルミネーション装飾による商店街活性化事業
(5) その他	6	9,065	野生鳥獣肉(ジビエ)振興事業、グリーンシーズン情報発信事業など
7 市町村合併に伴う地域の連携の推進に関する事業	0	0	
8 その他地域の元気を生み出す地域づくり	4	3,324	農家民宿開業、ロングライド、地元特産品加工・強化など
合 計	37	59,780	

【再掲】県全域で重点的に推進するテーマに関する事業分

重点テーマ区分	件数	支援額	事業例
県と市町村との協働事業	3	16,891	北陸新幹線飯山駅「アクティビティセンター」運営など
自然エネルギーの普及・拡大	1	612	雪中貯蔵酒づくり
障がい者、女性、若者の雇用促進、就業支援	1	576	困難を有する若者を支援する場所づくり
地域防災力の向上	2	1,049	災害時避難施設で体験・ワークショップ、湯田中区防災マップ作成事業
子育て支援	1	528	お父さんの読み聞かせ
合 計	8	19,656	

【再掲】北信地域で重点的に推進するテーマに関する事業分

重点テーマ	件数	支援額	事業例
北陸新幹線飯山駅開業を活かした地域づくりに資する事業	12	29,912	信越9市町村広域観光連携事業、北信州ハーフマラソン大会など

【参考】

- 当地域の要望状況: 40団体から43件 約7,900万円の要望がありました。内訳は地域づくり団体等公共的団体から35件 約6,144万円、市町村から8件 約1,741万円です。
- 平成27年4月15日(水)および23日(木)に事業選定委員会を開催し、事業を内定しました。
- 選定結果を踏まえ、該当団体の皆様には事業ごとの採否を付した書面により通知するとともに、選定した事業についてはより効果的に実施していただけるよう適切な助言をまいります。
- 1次分採択の結果、予算額と内定額が同額となったため、2次募集は行いません。

信州 ACE(エース)プロジェクト

Action [体を動かす]

Check [健診を受ける]

Eat [健康に食べる]

世界で一番(ACE)の健康長寿を目指しましょう

北信地方事務所 地域政策課 企画振興係

担当:(課長)吉原明彦 (担当)沖 美香

電話: 0269-23-0101(直通)

FAX: 0269-23-0256

E-mail: hokuchi-kikaku@pref.nagano.lg.jp

平成27年度 地域発 元気づくり支援金【北信地域】 選定事業一覧表

(平成27年5月1日現在)

No.	事業区分	ソフト・ハード	事業名	申請者	事業内容 (主な用途 ①:ソフト事業 ②:ハード事業)	総事業費(千円)		支援金内定額(千円)	重点テーマ区分
							うち支援金要望額		
1	地域協働の推進	ハード	手づくり農村支援事業	中野市	農業農村整備の推進を図るとともに、農村の自立を促す契機とすることを目的に、地域住民が発意し、施設管理者、農家、地域住民が協働して行う土地改良施設の補修・整備の直接施工や維持管理活動を支援する。 ②農道のコンクリート舗装や水路整備に係る原材料の支給等 農道舗装5地区(2,700千円)、水路改修4地区(2,059千円)	4,759	2,379	1,666	
2	地域協働の推進	ハード	協働のむらづくり事業	飯山市	住民(区)と市が協働して、農林業用施設(農道・林道・水路)を整備することにより、施設の維持管理作業を軽減し、農林業生産の効率を高める。 また、協働作業を通じて住民同士の交流、施設管理意識の向上を図る。 事業実施予定37箇所、うち支援金対象:農林道舗装等9箇所、水路改修13箇所	7,960	4,259	2,982	
3	地域協働の推進	ハード	地域協働で農業に活力を与えるための施設整備(農道舗装)	山ノ内町	地域住民が自立的に実施する農道舗装に原材料支給等で支援することにより、通行の安全確保、果実運搬時の荷痛み減少を図り、高齢化や後継者不足に悩む農業への生産意欲の向上と安定した農業経営につなげる。 また、協働作業を通じて住民同士の交流、農道管理意識の向上を図る。 ②農道舗装4地区 原材料費(2,967千円)、重機借上料(990千円)、広報表示、看板作成費(61千円)	4,017	2,008	1,406	
4	教育、文化の振興	ソフト・ハード	地域の偉人「和算家・野口湖龍」に学ぶ～村制60周年・没後200年記念事業～	木島平村	27年度は村制60周年と地域の和算家・野口湖龍没後200年の節目の年に当たることから、村の偉人に関する記念講演会と村内の舞台演劇グループによる朗読劇を開催し、地域の偉人を再認識するとともに、住民の地域に対する愛着と誇りを醸成する。 ①講師謝金(56千円)、チラシ印刷代(185千円)、舞台公演関係一式(644千円) ②展示ケース(1,398千円)	2,309	1,614	682	
5	地域協働の推進	ハード	手づくり農道舗装等事業	野沢温泉村	農業従事者が高齢化する中、農山村景観の保全と農用地の荒廃地化防止を図るため、農作業の労力を軽減と生産意欲の向上、農用地の流動化を目指し農家・非農家が協力して自ら行う農道舗装等に対し、村が原材料を支給する。 ②農道舗装1箇所、林道舗装2箇所、広場舗装1箇所、水路補修2箇所 原材料(砕石、コンクリート、マシユ)支給(6,189千円)	6,189	4,124	2,887	
6	農業の振興と農山村づくり	ハード	農地等国土保全事業	栄村	農業従事者の高齢化が進む中、農業用施設の維持管理作業の軽減を図るため、集落等の要望により改修が必要な農道及び用排水路等について、村が原材料等を支給する。 ②原材料支給:農道舗装等3箇所、水路等改修6箇所(4,335千円)	4,335	1,878	1,315	
7	商業の振興	ソフト	ドキドキ ハロウィン	中野市商店会連合会(中野市)	普段商店街を利用しない若い世代に商店街を知ってもらうためのイベント(ハロウィン仮装パレード)を行い、商店街や個店に親しみを持つきっかけづくりとする。 ①会場費(280千円)、イベント関係経費(679千円)、広告宣伝費(151千円)	1,200	900	900	
8	商業の振興	ソフト	中野陣屋・県庁記念館周辺イルミネーション装飾事業	中野陣屋光と音のシンフォニー実行委員会(中野市)	中野陣屋・県庁記念館を中心に地元高校生や建築士会と協力してイルミネーションの装飾を行い、併せて地元の音楽家によるコンサートの実施や商店会と共催でワンコインコンサートなど実施することで、中心市街地の活性化を図る。 ①イルミネーション購入費(2,725千円)、ミニコンサート出演料(240千円)、広告宣伝費(212千円)	3,202	2,326	1,533	
9	その他(産業の振興及び雇用の拡大)	ソフト	新市合併10周年記念農産物PR事業	中野市農業総合振興対策協議会(中野市)	中野市はきのこ及び果実類の一大産地であり、特に「えのきだけ」は生産量日本一を誇っている。 27年度は旧豊田村と合併して10年の節目の年となることから、今まで以上に中野市の農産物の販売促進に力を入れて取組んでいく契機とするため、食の大使を任命し、食の大使を核に、中野市の食の魅力在市内外にPRする。 ①会場使用料(648千円)、イベント経費(648千円)	1,296	972	972	
10	農業の振興と農山村づくり	ソフト・ハード	中野の農産物・情報発信拠点「Na-ハーベスト」運営事業	都市と農村交流事業実行委員会(中野市)	24年度に当概支援金を活用して神奈川県藤沢市にアンテナショップ「Na-ハーベスト」を開設。3年が経過し顧客、納入農家双方とも増えてきたことから、パッケージを統一し、ブランド力を高めるとともに、新鮮な農産物の品質を保持するための冷蔵庫等を購入する。なお、運営組織を強化するため有限責任事業組合を設立する予定。 ①デザイン料(367千円)、店内備品類(レジスター等)(112千円) ②冷蔵ショーケース(1,075千円)	1,658	1,154	1,154	
11	特色ある観光地づくり	ソフト	歴史と文化の街づくり「おらほの街の歴史と文化展」	NPO法人アートミュージム・まど(中野市)	27年度中野市では新市合併10周年記念として、6月のばらまつり期間中に「陣屋・県庁記念館」で市が所蔵する美術工芸品の展示会を予定している。 「陣屋・県庁記念館」1ヶ所だけでなく、中野市出身の日本画家菊池契月の作品や、一茶直筆の短冊等を展示会を近隣で開催することにより、中野の歴史文化に触れる機会を創出し、中野市の新たな魅力を発信する。 ①ポスター・チラシ印刷代(264千円)、展示パネル材料費(324千円)	583	423	423	
12	保健、医療、福祉の充実	ソフト	「お父さんの読み聞かせ実践発表と講習会」	おはなし♡びっくりばこ(おとこぐみ)(中野市)	父親の子育て参加の具体的な取り組みの一つとして、お父さんによる読み聞かせがある。読み聞かせは子どもにとっても父親にとっても大変有意義なものであることから、26年度、父親による読み聞かせに関する講演会を開催し、多くの人に関心を持ってもらうことができた。 27年度は具体的な実践の方法や読み聞かせしやすい本を紹介し、お父さんによる読みみかせの浸透を図る。 ①講師謝礼(206千円)、印刷製本(303千円)、絵本(60千円)	660	528	528	子育て支援
13	その他地域の元気を生み出す地域づくり	ソフト・ハード	唱歌「故郷」のふるさとでおもてなし、農家民宿「なんだ屋」開業事業	中野市豊田特産振興会(中野市)	中野市豊田地区は、唱歌「ふるさと」の情景が残る自然豊かな地域であるが、少子高齢化による人口の減少、農家の担い手不足、農地の荒廃、空き屋の増加など地域力の減退が目立っている。 そこで空き屋を活用し、都市住民が農業体験等しながら滞在できる農家民宿を開業し、交流人口を増やし、その先の移住等につなげていく拠点を整備する。 ①先進地視察費(89千円)、備品購入費(280千円) ②住宅改修費(579千円)、厨房改修費(190千円)	1,140	790	790	

14	特色ある観光地づくり	ソフト	信越9市町村広域観光連携事業	信越9市町村広域観光連携会議(飯山市)	25年度は「信越自然郷」・「北陸新幹線飯山駅」を集中的にPRした。開業年である26年度は県外でのキャンペーンやプロモーションの実施、また人材育成研修等行ってきた。開業直後の27年度は、26年度に策定した基本構想に基づき、信越自然郷の3つの価値として位置づけられた「食」「アウトドア」「リラクゼーション」を活用した具体的な取り組みを行う。 ①3つの価値をキーワードとした滞在プログラム・コンテンツの企画・造成・PR(4,500千円)、商談会への参加及び外国人向けパンフレットの作成(1,600千円)、銀座NAGANOでのPR(1,000千円)	27,000	10,000	10,000	協働・新幹線
15	特色ある観光地づくり	ソフト・ハード	飯山そばの里づくりプロジェクト	トガリン村(飯山市)	24、25年度当歳支援金を活用して、戸狩温泉周辺の遊休荒廃農地でそばを栽培し、収穫したそばを活用したイベントを実施してきた。 近年そばに限らず飯山市内で地元農産物を加工した様々な商品が開発されてきていることから、その商品と提供者を募り、「トガリン村収穫祭」としてイベントを開催し、27年北陸新幹線飯山駅開業を機に新たな誘客事業の展開を図る。 ①新聞広告(410千円)、流しレンタル代(19千円) ②会場整備費等(96千円)	586	431	339	新幹線
16	安全・安心な地域づくり	ソフト	災害時避難収容施設で災害体験とワークショップ(研修会)の開催	飯山倶楽部(飯山市)	防災、災害、避難所生活について学ぶため、夏休みを利用して市内の親子を対象とした防災キャンプを実施する。 ①ワークショップ開催経費(ポスター等印刷費(25千円)、講師謝金(132千円)、会場使用料(10千円))、防災キャンプ開催経費(講師謝金(66千円)、チラシ印刷(250千円))、啓発チラシ印刷費(200千円)	520	404	404	地域防災
17	その他(産業の振興及び雇用の拡大)	ソフト	北陸新幹線飯山駅開業記念 信越自然郷第3回北信州ハーフマラソン大会	北信州ハーフマラソン実行委員会(飯山市)	北陸新幹線飯山駅開業を記念する地域住民参画型の「マラソン大会」を開催し、地域の連携を深め、地元機運の醸成を図る。 なお、過去2回は「プレ大会」と位置づけ、県外参加者の比率を高め信越自然郷を広くPRしたり、大会運営への地元住民の積極的な参画に取り組んできた。 第3回となる27年は「開業記念大会」として参加目標人数を2500人とし、参加しやすい3kmの部門を新たに設置し、より多くの方に参加してもらい、信越自然郷を体感してもらおう。 ①会場設営関係費(1,550千円)、報償関係費(2,906千円)、レース関係費(5,654千円)、広告宣伝費(2,046千円)、参加案内等管理費(2,357千円)	14,514	2,500	2,500	新幹線
18	地域協働の推進	ソフト・ハード	広小路界隈創造プラン実践事業	いいやま広小路会議(飯山市)	北陸新幹線飯山駅開業に伴い、多くの観光客が中心市街地を訪れることが期待される。申請地の広小路界隈は飯山駅から2kmの場所にあり、周辺には飯山城址や高橋まゆみ人形館など集客力のある施設と特色ある店舗も点在している。 新幹線で訪れる観光客を中心市街地に誘導するまちなか観光や回遊性のあるまちづくりを推進するため、専門家の協力を得て地域の拠点となる教会を復活させ、地域全体を芸術という切り口で活性化に取り組む。 ①講師謝金(1,000千円)、ガーデンカフェイベント開催経費(650千円) ②拠点再生経費(2,340千円)	4,290	3,022	2,338	新幹線
19	その他地域の元気を生み出す地域づくり	ソフト・ハード	続 温井里山活性化事業	温井むらづくり委員会(飯山市)	22年度に当歳支援金を活用して農産物直売所を建替えてから5年が経過した。なべくら高原森の家への経路という立地から、年々森の家への観光客を中心に固定客が増加し、売上も順調に増えてきている。 以前から直売所利用者を中心にコーヒーや軽食の提供を望む声が多く寄せられたことから、空き寺を改修し、地元でとれた野菜を使った軽食を提供できる集落カフェを開設する。 ①お堂整備備品購入経費(691千円)、講師謝金(15千円)) ②厨房改修経費(594千円))	1,345	925	925	
20	その他(産業の振興及び雇用の拡大)	ソフト・ハード	野生鳥獣肉加工・流通施設整備事業	北信ジビエ振興組合(飯山市)	ハンターの捕獲した個体を保健所の許可を受けた加工施設を整備し運営していくことで、安心・安全な野生鳥獣肉が流通可能となり、ハンターの捕獲意欲の向上や担い手の確保を目指す。また北陸新幹線飯山駅開業を契機に飯山を代表する食となるよう、レシピの研究等あわせて行っていく。 ①ジビエマスターの育成経費(99千円)、ジビエマスター確保研修会(20千円)、テーブル、食器棚等備品(630千円) ②解体施設整備費用(11,609千円)	12,359	4,876	3,901	新幹線
21	特色ある観光地づくり	ソフト	信越自然郷アクティビティセンターを拠点とした新たな滞在型観光の創生事業	一般社団法人 信州いいやま観光局(飯山市)	県で推進する「山岳高原を生かした世界水準の滞在型観光地づくり」の一環として、飯山駅開業にあわせ「信越自然郷アクティビティセンター」が開所する。 ここでは、自然を楽しみながら移動行程自体を楽しむ新しい旅のスタイル「NAGANOモビリティ」の実践に向け、様々な情報発信をしていく予定であるが、初年度となる27年度は飯山駅周辺及びエリア内のサイクルートの設定とツアーの実施、あわせてアクティビティに関する情報発信やイベント、講習会を開催する。 ①情報発信ツール整備(1,600千円)、サイクル街づくり(1,100千円)、安全講習会事業(400千円)、NAGANOモビリティ事業(1,000千円)	4,100	3,280	3,280	協働・新幹線
22	教育、文化の振興	ソフト・ハード	信越自然郷斑尾高原芸術祭	信越自然郷斑尾高原芸術祭実行委員会(飯山市)	山と自然と人々の暮らし、文化・食、既存の建物や自然を生かし、既存の風景に溶け込むアートを展開し、地域住民と協働で地域への愛着と誇りを持つことを目的に約20年間、斑尾の地で芸術祭を開催してきた。 27年度は飯山駅開業年であることから、参加アーティストを増やし、信越9市町村に広く参加を呼びかけ地域を越えた連携を芸術という分野で図る。 ①芸術祭PR経費(750千円)、招待作家経費(2,000千円) ②トラス一式(550千円)	3,800	2,428	1,491	新幹線
23	その他地域の元気を生み出す地域づくり	ソフト	信越自然郷・五高原ロングライド2015	信越自然郷・五高原ロングライド実行委員会(飯山市)	26年の2014年大会では、北陸新幹線飯山駅開業と信越自然郷を大きくPRするとともに、新駅開業後に見込める外国人誘致対策や、自転車電車で移動する「輪行」の啓発等を行い、420名の参加があった。 27年の2015年大会では、「輪行」についてより認知度をアップさせるためのPRに力を入れるとともに、具体的な行動へと結びつけるための取り組みを行う。 また、信越自然郷内にある観光資源の掘り起こしにつながる安全木札を作成し参加者に配布する。 ①コース安全対策看板作成費(216千円)、参加者記念品作成経費(847千円)、輪行PR経費(1,493千円)	5,208	1,653	1,289	新幹線
24	環境保全、景観形成	ソフト・ハード	第2回 志賀高原ユネスコエコパーク蓮池外来種駆除事業	志賀高原観光協会(山ノ内町)	26年度外来植物に覆いつくされた蓮池を、専門業者による深部駆除及び地元住民、観光事業者、小学生による一斉駆除作業を行い、一定の成果を得た。 しかし1回の駆除だけでは根本的な駆除とはならず、継続的に実施するための方策を検討してきた。 その結果、多額の費用のかかる深部駆除作業を、地域住民の知恵と工夫で行うことで、持続可能な駆除方法を確立し、住民参加の駆除作業として地域に根づく取組とする。 ①深部草刈機材制作費(283千円)、廃棄物撤去費用(558千円) ②深部の駆除用ボート(366千円)	1,389	891	891	

25	特色ある観光地づくり	ソフト	志賀高原ロングライド	山ノ内町エコツアー実行委員会(山ノ内町)	本イベントは、26年度に山ノ内町全域がユネスコエコパーク移行地域が新たに設定されたことを契機に、志賀高原の更なる魅力を発信する取り組みとして初めて開催された。 27年度は1回大会で参加者から改善の声が多かった開催日の前倒し、トイレの増設、コース設定について検討し、より良い大会としていく。さらに、飯山駅開業年であることから越後自然郷やユネスコエコパークに関するPRを積極的に行う。 ①事務局運営費(1,053千円)、調査・準備経費(216千円)、広告費(592千円)、告知物制作費(757千円)、ゲスト関連経費(310千円)、エントリー経費(662千円)、大会運営費(5,893千円)	9,539	2,844	1,422	新幹線
26	環境保全、景観形成	ソフト・ハード	奥志賀高原リンドウの丘整備事業	奥志賀高原常会(山ノ内町)	25、26年度、スキー場内に簡易な散策コースの整備と、「リンドウの丘」としてリンドウの移植を行い自然環境の大切さを訴えるとともに、観光資源としてのPRを行った。 27年度は奥志賀高原をよりPRしていくため、写真・イラストコンテストを行うとともに、引き続き地元中学生に地域資源の大切さを学習する機会を提供する またリンドウの丘から奥志賀渓谷へのトレッキングコースを整備し、山岳高原リゾートとしての奥志賀高原のPRを行う。 ①写真・イラストコンテスト経費(518千円)、リンドウの丘PRチラシ作成費(226千円)、ガイド料(90千円) ②案内板一式(435千円)	1,270	915	915	
27	環境保全、景観形成	ソフト・ハード	「後世に残そう森・水・いのち」志賀高原森林再生事業	志賀高原から始まる市川海老蔵「いのちを守る森づくり」-ABMORI実行委員会(山ノ内町)	26年度から県と山ノ内町が中心となり、志賀高原の閉鎖スキー場の森林再生を目的とした植樹活動「いのちを守る森づくり」を実施した。 27年度は単なる植樹イベントに終わらせることなく、小学校の授業の一環として、志賀高原から拾ってきたどんぐりから苗木を育て、育った苗木をABMORIにて植樹する。 ①苗木及び種子の採取及び育苗経費(344千円)、育苗地整備経費(69千円)、植樹経費(3,880千円) ②育苗地整地及び電気柵経費(446千円)、植樹経費(4,320千円)	9,200	6,611	3,611	協働
28	地域協働の推進	ソフト	須賀川区魅力発信事業	須賀川区ふるさと創生委員会(山ノ内町)	須賀川区は25年度県の「集落再熟実施モデル地区支援事業」のモデル地区に指定され、集落活性化計画を策定した。計画では須賀川地区で心身ともに健康的でよりよい人生を送るとい意味を込めた「ウエルネスすかかわ」というブランド名を設定し、ブランドの具現化に向け、その品質向上や新商品の開発、トレッキングコースの整備などに取り組んできた。 27年度は掘り起こしてきた地域資源を外に情報発信していくとともに、訪れた観光客を地域住民が主体的に受入ることを促進するための情報発信ツールを作成する。 ①GAP調査経費(1,080千円)、パンフレット作成費(1,815千円)、印刷費(167千円)	3,062	2,297	2,297	
29	安全・安心な地域づくり	ソフト	湯田中区支え合い(防災)マップ作成事業	湯田中区(山ノ内町)	湯田中区は13の組によって構成された世帯数約850人、人口2,000人からなる山ノ内町最大の行政区である。 24年度区として初めて防災訓練を実施したが、その時実質的なルールや組織は消防団活動以外にはなく、現在の区防災組織では実際の災害時の対応が不十分であることがわかった。 このことから、まずは災害発生時の区としての避難ルールを策定することが急務という認識から、防災、支え合いマップを作成し住民の意識の高揚を図る。 ①マップ作成経費(788千円)、周知チラシ作成経費(18千円)	806	645	645	地域防災
30	その他地域の元気を生み出す地域づくり	ソフト	玄米粉「米っふる」で身体も村も元気になろう!!プロジェクト	なちゆるるスイーツ(木島平村)	木島平をアピールするため、まずは特産品である「米」をモチーフとした商品(玄米粉ワッフル、玄米粉ゴフレットなど)について、地域活動団体や地元高校生など多くの人達と連携しながらモニターテストを重ね、味の改良を重ねてきた。 27年度は、改良を重ねた商品を村内外へ販売していき、「米どころ木島平」地域の特産品としての認知度を高めていく。 ①視察経費(54千円)、業務用ワッフル調理器具(182千円)、発電機(80千円)	427	320	320	
31	保健、医療、福祉の充実	ハード	困難を有する若者が就労につながることを支援する場所づくり	NPO法人ばーむぼいす(木島平村)	引きこもりや登校拒否等で社会的自立に困難を有する子どもや若者、特に高校卒業以降の若者が就労に向けて力をつける場として「ほっぷすてつぷJOB college」を27年4月からスタートする予定である。その自立支援に当たって、自炊訓練をメニューとしていく予定であり、簡易キッチンを整備するとともに、就労機会を創出することが期待されるベレットストーブの清掃等を身につけるため、ベレットストーブを設置する。 ②ベレットストーブ購入経費(716千円)、キッチン水道整備工事一式(864千円)	1,580	1,053	576	就業支援
32	特色ある観光地づくり	ハード	龍興寺清水周辺魅力アップ事業	内山山区区づくり景観づくり委員会(木島平村)	龍興寺清水は古くから内山山区に伝わる名水で、平成20年度には平成の名水百選に選ばれ村を代表する観光地となっている。また生活用水としても区民に親しまれ、区全体での清水の環境保全に努めている。 そこで、村を代表する観光地としての魅力アップをさらに高め、観光客が来てよかったと満足してもらえるよう、駐車場の整備等環境整備を行う。 ②看板設置(150千円)、流水化工事(630千円)、標柱(160千円)	940	626	626	
33	森林づくりと林業の振興	ソフト	木島平村カヤの平高原におけるブナの森づくり	NPO法人森のライフスタイル研究所(伊那市)	カヤの平高原牧場は夏の間の牛の放牧地として栄えてきたが、現在では牧畜農家の減少により、未利用部分が増加している。 そこで未利用の牧場を昔のブナ林に復元することを、都市住民と地域住民の交流により行い、森づくりを行うと共に、都市との交流人口を創出する。 ①バス借料(666千円)、高速代(90千円)、講師謝金(159千円)、募集チラシ印刷費(162千円)	1,978	808	808	
34	その他(産業の振興及び雇用の拡大)	ソフト・ハード	雪国の個性を活かした雪中貯蔵酒づくり事業	内山酒米研究会(木島平村)	木島平村内山集落では、集落で栽培した酒米と、龍興寺清水の水で醸造した酒「内山乃幸」を3ヶ月間雪室で貯蔵し付加価値を付けて販売する取組みを2年前から行っており、販売とともに売価となるなど好評を博している。そこで更なるPRのための試飲会等のイベントを開催するとともに、今後とも安定した品質を確保するため、雪の長期保存が可能な簡易雪室施設を設置する。 ①試飲会及びフォーラム開催経費(82千円)、酒米技術視察経費(50千円)、PR経費(42千円)、雪室設置費(451千円) ②雪室被覆シート(167千円)	793	612	612	自然エネルギー
35	その他(産業の振興及び雇用の拡大)	ソフト	野沢温泉村を起点とした多言語地域交通案内事業	一般社団法人野沢温泉観光協会(野沢温泉村)	北陸新幹線飯山駅の開業を契機に今以上に公共交通機関を利用して来村する外国人旅行者の増加が見込まれる。現在外国人旅行者からは、野沢温泉から他地域への公共交通機関を使った移動手段の問い合わせが多く、対応が追いつかない状況である。 そこで野沢温泉を起点とした運営会社の違う電車・バス・タクシー、運送を含むツアー、その他接続まで含めた移動手段に特化した日本語・英語併記のアクセスガイドパンフレットを作成し、旅行者の満足度アップと周辺周遊観光の増進を目指す。 ①パンフレット作成経費(845千円)、ウェブサイト作成経費(145千円)	991	743	743	新幹線

36	その他(産業の振興及び雇用の拡大)	ソフト	北陸新幹線飯山駅開業に伴うグリーンシーズンのメディアトリップ事業	一般社団法人野沢温泉観光協会(野沢温泉村)	野沢温泉村の降車駅は北陸新幹線飯山駅、ということの告知と、利用促進を目的に北陸、首都圏のメディア関係者を招き、開業により身近になる信越自然郷エリアを実感してもらう、この地域の魅力を体感し、自社の紙面、電波で積極的な情報発信を促す。 なお、26年度はホワイトシーズンで実施をしたが、27年度はグリーンシーズンで実施する。 ①交通費(251千円)、宿泊費(160千円)、マイクロ代(30千円)	561	337	337	新幹線
37	地域協働の推進	ソフト	秘境秋山郷素朴な観光おもてなし事業	信越秋山郷会(栄村)	北陸新幹線飯山駅開業を見据え、津南町、栄村両地域の秋山郷住民が協働し、昔ながらの生活習慣や豊かな自然が残る秋山郷の魅力を旅行者が自ら「秘境」を体験できるためのおもてなしや新たな観光メニューの掘起しを行い、昔からある素朴な観光の振興を目指す。 26年度はガイドブックの作成、食のコンテストの実施、お土産品の開発を行ったが、27年度はフォトコンテストの実施、料理講習会の開催、観光探訪パンフレットの作成等行う。 ①フォトコンテスト開催経費(481千円)、料理講習会(280千円)、観光探訪パンフレット作成経費(1,576千円)、クリアファイル作成経費(691千円)	3,029	2,272	2,272	新幹線
北信地方事務所 計					37 事業	148,595	73,848	59,780	